

## 創立70周年記念式典開く



主催者挨拶の近藤学園長

鯉淵学園農業栄養専門学校創立70周年記念式典・記念講演会・祝賀会が平成27年11月28日、同校の体育館で開催されました。式典には同窓会会員、農民教育協会の役員、同校のOB教職員、学生など多数の出席がありました。本県からは5名が出席しました。

第1部の記念式典は、10時から始まり、まず農民教育協会須田理事長代理の海老澤常務理事からの式辞のあと、近藤学園長が主催者挨拶を行い、続いて橋本茨城県知事、岡田参議院議員、高橋水戸市長らが祝辞を述べられました。来賓紹介のあと、10万円以上を寄付した57名に対して感謝状が贈られました。最後に万歳三唱をして記念式典は閉会となりました。

第2部は、学校法人文化学園理事長、日本私立大学協会会長の大沼 淳氏（本学4期卒）が「次世代の専門学校教育に望む」と題しての記念講演がありました。

第3部は、同校の学生食堂で祝賀会が催されました。



（資料抜粋）

学園創立70周年記念事業について（趣旨）

学園は本年創立70周年を迎えるに当たって、これまでの歴史を振り返り、今後の歩みを着実なものとし、学園のさらなる時代を紡ぐべく、ここに同窓会の協力を得て創立70周年を記念して事業を計画した。

記念事業

1. 記念式典
2. 記念講演会・祝賀会
3. 記念事業
  - (1) 学生・教職員の海外・国内研修支援事業
  - (2) 6次産業化教育支援事業
  - (3) 出版事業
- ① 卒業生生活動事例集「地域で輝き食と農を拓く人々No.3」
  - ② 資料 学園の歩み（平成18年～平成27年）
  - (4) 史跡・木碑の建立

## 卒業生生活動事例集第3号を発刊

### 本県卒業生から3名の活動事例

鯉淵学園農業栄養専門学校と鯉淵学園同窓会は、創立70周年記念事業として、全国で活躍する卒業生生活動事例集第3号を発刊されました。これまで、卒業生の活動紹介は「農業経営大賞優秀作品集」と、全国で活躍する卒業生の「地域で輝き食と農を拓く人々」の事例集が発刊され、多方面でその活動が高く評価されてきました。今回の第3号は、学園創立70周年を機に「食と農」の現場で活躍する全国の卒業生の取り組みを更に内外に広く紹介するとともに、学園の教育方針である「タネまきから食卓まで」の食農一貫教育を外部に一層理解してもらう広報資料として発刊されました。

掲載されたのは全体で23事例でありました。内訳は「地域に根ざした農業生産法人」3事例、「高品質・高付加価値生産に挑む」6事例、「大規模低コスト生産を目指す」2事例、「業務用・スーパー等と契約した経営戦略」2事例、「六次産業で活性化」2事例、「女性の感性を活かした活動」3事例、「地域を牽引した活動」5事例であり、いずれも素晴らしい活動事例と高く評価されています。

なお、本県の卒業生からは次の3名の活動事例が紹介されています。

- ・加藤 整さん（10期卒）  
『農協と生協の連携を求めて』
- ・大植 勉さん（30期卒）  
『淡路市特産のフキ栽培に情熱を』
- ・高見康彦さん（44期卒）



## 第 32 回同窓会大会開く

## 鯉淵学園の思い出

今回は、京都府福知山市のご出身で、現在は大阪府高槻市にお住まいの公庄達一さん（11 期卒）が鯉淵学園の思い出として、今年 6 月に発行した支部だより（第 6 号）で掲載した普光江文江さん（12 期卒）執筆による「演劇部による『土』の上演」を読まれての感想を書いていただきました。

### 普光江さんの「土」の上演を読んで

この度、加藤 整先輩より、鯉淵学園同窓会兵庫県支部だより（第 6 号）を送っていただきました。そして普光江文江さん（12 期卒）の「演劇部による『土』の上演」についての感想なり思い出を書いてほしいとの依頼を受けました。そこで、60 年余り前のことを思い出し、薄れゆく記憶を辿りながらペンをとりました。

当時（昭和 30 年）学園では学友会役員の改選があり、不肖私が文芸部の班長に、親友の岡本 寛君（11 期卒・茨城県）が演劇部の班長に就任することになりました。そして、文芸部では新しい研究課題として農民文学に焦点を絞り、茨城県出身の歌人であり作家である長塚 節（公庄達一 11 期卒）



（ながつかたかし 1879—1915）の小説「土」を取り上げることになりました。この年が長塚 節の没後 40 年に当たり、水戸市を始め茨城県下で追悼記念事業が行われ、東京の明治座では新国劇による「土」が上演されていました。

そんな時、岡本君から「僕たちも学園 10 周年記念の一環として「土」を取りあげ上演したいので、文芸部にも協力してほしい。」との要請がありました。そこで早速班員で協議した結果、協力して一緒にやろうということになりました。こうして「土」は演劇部と文芸部の合同作品として上演することになったのです。

早速文芸部では、長塚 節の「土」についての研究、われわれ独自の脚本の執筆（これには新国劇公演「土」の脚本家伊藤貞助先生の脚本を手本にしました）に取り組みました。一方、演劇班では、東京での明治座公演の観劇、配役等の研究を進めていました。

文芸部での活動の中で特筆されるのが、普光江さん（旧姓柴崎）でしょう。長塚 節の生家（結城郡石下町）の訪問調査、脚本の作成、長塚 節の生涯についての冊子の作成、さらに上演に当たってはプロンプター等々、縦横無尽の大活躍でした。また、時代背景の研究では若林 均君（12 期卒）が特に活躍してくれました。短期間での脚本作成と練習等多くの難問がありましたが、演劇・文芸両部員の協力と努力で晴れて 11 月 23 日に上演



主催者挨拶の九石会長

第 32 回鯉淵学園同窓会大会が平成 27 年 11 月 28 日同校の 3 号棟教室で開催され、全国の支部代表者など多くの同窓会会員が出席しました。本県からも 2 名が出席しました。同窓会大会の詳細は、本部からの同窓会会報をご覧ください、今回の支部だよりには、支部活動に関係のある主な事項を抜粋してお知らせいたします。

平成 28～29 年度の事業計画では次の事項が承認されました。

1. 学園発展のための連携活動の推進
  - (1) 70 周年記念事業推進のための支援
    - ・ 6 次産業化教育の実践に対する協力支援
    - ・ 学生、教職員の国内研修に対する受入態勢づくりと協力
    - ・ 公開講座開設に向けた卒業生講師の支援
  - (2) 学生募集への協力
  - (3) 農民教育協会・学園・同窓会との連携活動の強化
  - (4) 農産物直売施設「農の詩」への協力支援
  - (5) 全国協同組合協議会の活動支援
2. 地域農業の担い手確保と育成
3. 支部活動の強化
4. 財政基盤の確立
5. 事業執行体制の強化

今回は役員改選があり、次のとおり 28～29 年度の会長、副会長が再任となりました。

会長	九石 裕	(23 期卒)	栃木県
副会長・常任委員長	西村勝夫	(22 期卒)	茨城県
副会長	黒澤賢治	(25 期卒)	群馬県
副会長・事務局長	倉辻芳次	(19 期卒)	茨城県



の運びとなりました。

当日は学園生のみならず、地域の人達にも感銘を与え喜ばれました。「土」を上演するに当たり、岡本君と交わした上演の意義は、真の農村、農民の生きざまを知り、理論だけでなく新しい農業、農民活動の在り方、またその発展のために良き指導者として成長する礎になれば、ということでした。幸いに両部員とも「土」の上演を通して多くの事を学び取ることが出来たと思います。

以上、普光江文江さんの「土」上演に関する記事を読んだ私の感想なり思い出です。私は農業関係に人生を掛けることは出来ませんでした。が、学園での学びと人間関係は私が得た人生の宝物です。鯉淵学園のますますのご発展と、皆様のご健勝を祈念申し上げ、ペンを置きます。

## 小出満二先生の「小伝」を上梓して

鯉淵学園は今年創立 70 周年を迎えましたが、建学の精神に大きな役割を果たされた初代学園長・小出満二先生 (1879-1955) を知る人は、同窓生の中でも少なくなり、また現在の学園関係者では皆無に等しい状況と仄聞しています。

そこで私は、改めて小出先生について認識を深めていただく切っ掛けになればと考え、昨秋『日本農業教育の碩学 小出満二』として、先生の「小伝」をまとめ、関係先にお届けしました。



これに対して思いがけないところからいくつかの反響がありました (加藤 整 10 期卒) た。一つは、千葉県在住の早稲田大学の学生 T さんから、彼は卒業論文のテーマに農業教育問題を取り上げ、いろいろ調べていると「小出満二」という名前がよく出てくるが、これがどんな人なのか分からない。大正・昭和期の農業教育における小出満二の存在感はかなり大きいように思われるにも関わらず評伝・伝記の類がなく困っていたところ、国会図書館でこの本を (拙著) に出合った。参考にしたいので一部譲ってもらえないか、ということでした。早速幾つかの資料を添えて届けました。

二つ目は、紀伊国屋書店から注文の連絡が入ったことです。顧客の注文によるものかもしれませんが、拙著は書店で販売することを目的に書いたものではないので、書店に並ぶことはありません。どんな方がどこでこれをお知りになったのか興味がわきます。

三つ目は、神戸在住の F さんです。F さんは関西農業史研究会のメンバーの一人で、日本最古の農書といわれている『親民鑑月集』(永禄 7 年、1564 年) の研究をされているそうですが、小出先生も『親民鑑月集』を早くから注目されていて、大正 5 年にこれを書写されています。そんなことから F さんは小出先生に関心をもたれる

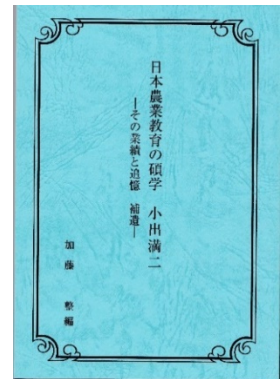
ことになったようです。早速、先生の大学卒業論文『但馬牛産論』と共にお送りしました。

最後に、小出先生と縁の深い鹿児島大学、九州大学、東京農工大学にもお届けしたところ、今回は鹿児島大学農学部の岩元泉先生から詳細な資料をご提供いただき、鹿児島高農時代の小出先生の動静が一層明らかになりました。感謝しています。

私にとって、この一年は小出先生のことを考え続けてきた年でしたが、鯉淵学園では当局、同窓会ともに、初代学園長小出満二先生について関心が薄れつつあるのではないかと、いささか危惧させられる一年でもありました。

### 【本の紹介】

加藤 整さんは昨年の秋に発行された『日本農業の碩学 小出満二』の「補遺」として、次の小冊子を発行されました。鯉淵学園の関係者による小出先生の「思い出」と、先生の「著作目録」が纏められています。小出先生の人柄と業績について理解を深めるうえでとても参考になります。



## 頑張っています！同窓生

今回は柴垣仁司さん (20 期卒)、西田 博さん (25 期卒) に登場していただきました。

## 四つの楽しみを大切にしたい



ご自宅の玄関先での柴垣さん

秋晴れの9月15日、車窓から入る清々しい風に秋を感じながら豊岡市出石町福居にお住まいの柴垣仁司さん(20期卒)をお訪ねしました。この時期、但馬地方では稲刈りのシーズンなのか、あちこちの田んぼでは、コンバインが軽やかなエンジン音を響かせ、黄金色に実った稲を刈り取っていました。ご自宅に着くと柴垣さんと奥様に出迎えていただき、美味しい珈琲をご馳走になりながら取材をしました。

柴垣さんは県立豊岡農業高校を卒業後、昭和38年に鯉淵学園の農業協同組合科に入学されました。そして昭和40年の卒業時には、学業成績が優秀である学生に送られる「東畑精一賞」を授与されました。卒業後は、兵庫県農業協同組合中央会に就職され、総務部を皮切りに主に経営・研修部門を歩まれました。特に農協の合併推進業務が長く、兵庫県内全体の農協合併構想を企画・指導して大規模農協を設立させるなど、その功績は多大でありました。当時を振り返り、柴垣さんは「中央会では合併、経営、役職員教育の仕事が多かった。特に養父郡の合併では、若くして農協に出向していい勉強をさせてもらった。」と懐かしく話されていました。

県農協中央会を退職後、たじま農協の常勤監事として2期(6年間)にわたり、その職責を果たされ、その後非常勤の監事として1期(3年)だけ務められました。

柴垣さんは、たじま農協の非常勤監事の時から福居地区の役員(会計・区長)を務められました。戸数が40戸、人口が125人の小さくてまとまりのある地区に見えるが、住民からは様々な要望、意見が出るので、それをまとめるのに苦労されたようです。

これからの暮らしやライフワーク・趣味などをお聞きしました。柴垣さんは「今の自分には四つの楽しみがある。」と話されていました。一つ目は『ゴルフ』で、月2~3回はゴルフをされているとのことで、仲間から誘われたら絶対に断らないそうです。そのゴルフ仲間にお聞きすると腕前は落ちたとのことでした。二つ目は『三味線』で、以前から楽器を弾きたいと思っていたところ、5~6年前に三味線に入門し、今では月2回のレッスンには欠かさず参加され、出石町だけでなく近隣の市町の保存会・民謡会などの団体に所属して、各町で開かれる文化祭・発表会などに出演されているそうです。「三味線は決して上手くはないが楽器に触れることに意義を求めて、これからも頑張りたい。」と話されていました。

三つ目は『旅行』で、それもご夫婦で旅行することだそうです。これまでも海外や国内を数多く旅行されていますが、当面、九州地方を自家用車で回りたいそうです。四つ目は『野菜を作ること』であり、自分や家族の健康のために新鮮野菜を自給することだそ



三味線を弾く柴垣さん

うです。自宅周辺に1反の畑があり、四季折々の野菜を栽培して、採り立て野菜を離れて暮らされている息子さん家族に送っておられます。

奥様からは、「毎年1回、家族全員に招集をかけ、一泊程度のささやか旅行に行ったりしている。」と旅行先のスナップ写真を見せていただきました。息子さんご夫婦とお孫さん7人に囲まれた家族写真に柴垣さんご夫婦が写っておられ、とても幸せそうな表情が印象的でした。

取材が終わり、柴垣さんと昼食を食べに蕎麦店に行きました。蕎麦御膳をご馳走になりながら、蕎麦談義となり、柴垣さんは「蕎麦打ち道具」を持っておられるとのことで、時々、蕎麦粉を買ってきて蕎麦打ちをして親戚や家族に振る舞われているそうです。

鯉淵学園の先輩であり、また私が県農協中央会に勤めていた時の上司である柴垣さんに約10年ぶりにお会いして、懐かしいお話を聞かせていただきました。柴垣先輩、いつまでもお元気でご活躍ください。

## 学生時代の絆に感謝を



カフェでの西田さん

10月27日、「丹波黒豆の枝豆」と書いた幟やテントが立ち並ぶ国道372号線を走り、篠山市八上下にお住まいの西田博さん(25期卒)をお訪ねしました。取材は西田さんの息子さんが経営されているカフェで、美味しいブルーベリースムージーをご馳走になりながら行いました。

西田さんは、地元の高校を卒業後、鯉淵学園園芸科に入学されました。園芸科での特別研究は、西村教授の指導のもとで「稲のイモチ病」をテーマに取り組みされました。学園での思い出をお聞きすると、学生自治会の規律である連帯責任ということを実際の経験を通して学んだことや、夏期実習で作業中にサイレージの中に閉じ込められたことが懐かしいと話されました。また、学生運動で学校との団体交渉をおこなったこと、入学当初の歓迎会で先輩に一升酒を飲まされたこと、洗面器でラーメン



ンを作ったこと、夜間実習として称して近くの畑に野菜を穫りに行ったことなど、数々の思い出を話されていました。特に西田さんは「学園に入って一番よかったことは、全国で友達ができて、そのネットワークが構築できたことである。卒業した今でも大いに役立っている。」ということを強調されていました。

昭和45年3月に鯉淵学園を卒業後、兵庫県経済農業協同組合連合会（平成13年に全国農業協同組合連合会と合併し全国農業協同組合連合会兵庫県本部に組織再編）に入会されました。現職時代には主に生活、施設、生産資材、営農指導などに従事され、生産資材部長で退職されました。農産物直売所（ファーマーズマーケット）や全農と農協の農機事業一体的運営の立ち上げには大変苦労されたそうですが、輝かしい功績も残されました。農産物直売所の立ち上げに際しては、全国の先駆的農協に在職している同期生に連絡して指導を受けるなど、学生時代に培った絆が大いに役立ち大変感謝していると話されていました。

全農を退職後、全農物流株式会社や農業資材卸会社に就職され、平成26年に退職されました。現在は専業農家として3.5haの圃場を経営し、水稻（コシヒカリ）を2ha、黒大豆を中心に山の芋、大納言小豆など1.5haを栽培されています。また、全圃場面積のうち2haを近隣の農家（5戸）から農業経営を受託されています。

サラリーマンを退職された息子さんが西田さんの後継者として、ブルーベリー33a、栗10aを栽培されている傍ら、とりたて野菜のランチと手作りスイーツの店として「futaba cafe」を経営されています。西田さんは「息子がブルーベリーの栽培・販売を学ぶために、鯉淵学園時代の仲間に頼んでその技術を教えてもらった。」と同期生の有り難さを話されていました。息子さんは学んだ技術を活かして、ブルーベリーの栽培・販売とともに摘み取り園も開いておられるほか、ブルーベリーのジャムやスイーツも製造されています。まさに生産から加工、販売までの6次産業化を実践されています。西田さんは、息子さんの経営を陰で支え、よき相談者・協力者としての存在だそうです。



「futaba cafe」の前で



山羊と黒大豆畑を背景に

また、西田さんは篠山市地域農業再生協議会委員、丹波ささやま農協黒大豆本部委員会委員、自治会の農会長に就任され、地域農業の振興に活躍されています。今後のビジョンをお聞きすると、「生涯百姓で自己完結型農業を目指したい。」と力強く話されていました。趣味を

お聞きすると、「旅行が趣味であるが、最近は忙しくて旅行に行っていない。しかし、これからは海外、国内問わず、女房と一緒に旅行をしたい。」と笑顔で話されていました。

最後に学生諸君に対して激励の言葉をお願いしました。西田さんは「学生時代に仲間と同じ釜の飯を食べたことが一生の財産となった。学生諸君もこのような付き合いをぜひして欲しい。」と話されていました。

西田さんの取材が終わり帰り際に、「我が家の黒大豆をお土産に持って帰って。」と言われて、丹波篠山特産である旬の黒大豆枝豆を頂きました。帰って女房に見せると「西脇市でも黒大豆の枝豆は見かけるが、こんなに粒の大きな黒大豆はさすがやな〜。」と感心していました。西田さん、これからも健康にご留意いただき、益々のご活躍をお祈りいたします。

## 近畿のつどいを和歌山で開く ～次回は奈良県で再会しましょう～



懇親会場で記念撮影

第3回近畿のつどいが平成27年11月7日、8日、和歌山県クアハウス白浜で開催され、近畿地区の同窓生21名が4年ぶりの再会で楽しいひとときを過ごしました。

この近畿のつどいは、近畿地区に在住する鯉淵学園同窓会会員の一層の親睦と交流をはかり、母校である鯉淵学園の発展を期し、あわせて学園創立70周年を記念して開かれました。このつどいは、交流会と懇親会に分かれ、交流会では、兵庫県支部長福井寛行氏の司会で亡くなられた学園同窓生への黙祷から始まり、次に実行委員長の和歌山県支部長松浦義人氏（23期）が開会の挨拶をしたあと、遠路はるばる栃木県からお越しいただいた同窓会本部会長の九石 裕氏に学園70周年記念事業や同窓会の情勢報告を話していただきました。最後に全員による記念撮影をおこない終了しました。その後の懇親

会では、滋賀県支部長の高田利道氏による乾杯のあと、1人3分～5分の近況報告をおこない、最後は大阪府支部長成田正幸氏のリードで懐かしい寮歌を全員が肩を組み合って力強く歌い中締めとしました。和歌山県支部のご好意で設定された2次会ではカラオケで大いに盛り上がりました。

近畿のつどいを始めて参加した同窓生は、「これまで仕事の関係で県支部の集まりや近畿のつどいに参加できなかったが、参加してみてこんな楽しいとは思わなかった。やっぱり鯉淵の同窓会はええな～。40年前に卒業したのに学生時代に戻った感じや。同じ釜の飯を食べたあの時の寮生活がほんまに懐かしい。次回もぜひ参加し親睦を深めたい。」と話されていました。翌日の別れ際には、同窓生らが固い握手を交わし再会を誓い合いました。今回は和歌山県支部の皆さんに大変お世話をいただきましたが、今回は奈良県支部のお世話で3、4年後に開催する予定であります。今回不参加の同窓生の皆様、今回の奈良県には是非参加していただき、楽しいひとときを過ごしましょう。

## 兵庫県支部総会を開く ～会費納入者の増加を～

鯉淵学園同窓会兵庫県支部の総会が平成27年11月7日、和歌山県クワハウス白浜で開催され、支部会員6名が参加しました。

支部総会は、まず始めに平成25年度～平成26年度活動報告と収支決算、平成27年度～平成28年度活動計画と収支予算が協議され、了承されました。次に役員改選があり、顧問に23期田中義治氏、会長に26期福井寛行氏、副会長に28期武久正篤氏、会計監事に23期森友敏則氏、事務局長に44期芦田靖司氏が再任されました。また、提出議案に基づく質疑では、出席会員からは「会費を納める会員が少なく全会員の半数もない。支部運営に支障があるなら、会費を増額してはどうか。」「会費1,000円を2,000円にしてはどうか。」「会員に会費を納入してもらうように支部だよりで依頼してはどうか。」「予算の大半が支部だよりの発行経費であるが、予算が少なくて支部だよりが発行できなくなるのは困る。」「会員から好評の支部だよりを今後も発行するよう努力せよ。」など会費に関する強い意見がありました。

なお、総会で可決された平成27年度～28年度活動計画、平成25年度～26年度収支決算書、平成27年度～28年度収支予算書は以下のとおりであります。

### 【平成27年度～平成28年度活動計画】抜粋

平成27・28年度の支部活動は次の事項に取り組みますので、会員皆様のご協力・ご支援をお願いいたします。

1. 同窓会支部会報「兵庫県支部だより」は、27・28

年度に各2回発行します。

2. 支部会費(1,000円)の徴収は、毎年度50名を目標に取り組みます。
3. 同窓会本部が主催する支部長会には参加し、検討した内容や情報は会報を通じて会員に提供します。
4. 役員会は年間2回開催し、支部活動の活性化等を協議します。

### 【平成25年度～平成26年度 収支決算書】抜粋 (収入の部) 単位：円

科目	決算額	備考
前期繰越金	81,562	24年度からの繰越金
会費	99,000	25・26年度会費
分担金	220,000	同窓会集い、懇親会負担金
雑収入	8	貯金利息
計	440,570	

### (支出の部) 単位：円

科目	決算額	備考
同窓生集い費	228,262	同窓会、懇親会、郵送費他
会報発行費	123,449	支部だより4回印刷費他
名簿更新費	0	
旅費	10,845	本部同窓会大会参加旅費他
事務費	1,908	事務用品、振込手数料
雑費	19,280	役員打合せ経費
次期繰越金	16,826	27年度への繰越金
計	400,570	

### 【平成27年度～平成28年度 収支予算書】抜粋 (収入の部) 単位：円

科目	予算額	備考
前期繰越金	16,826	26年度からの繰越金
会費	100,000	27・28年度会費
分担金	0	
雑収入	4	貯金利息
計	116,830	

### (支出の部) 単位：円

科目	予算額	備考
同窓生集い費	0	
会報発行費	90,000	支部だより印刷・郵送費他
名簿更新費	0	
旅費	5,000	本部同窓会加旅費助成他
事務費	5,000	事務用品、振込手数料他
雑費	5,000	役員打合せ経費
予備費	11,830	
計	116,830	



## 鯉淵学園創立 70 周年

### 記念式典で感じたこと

11月28日に行われた鯉淵学園創立70周年記念式典、講演会、祝賀会に参加してきましたので、とりあえず私の率直な感想を報告します。

- (1) 記念式典は挨拶に終始した感があり、もう少し工夫があってもよかったのではないかと、思いました。例えば、OB代表の思い出や在学生の決意を組み込むなど、内容に厚みがあればと思いました。
- (2) 感謝状の贈呈は、今回の募金の大口寄付者が対象であったのには、ちょっと驚きました。募金活動はまだ継続中であり、顕賞するならば締めてからまとめて行えばよいことでしょう。70周年記念の感謝状贈呈の対象としてはあまりにも芸がないと思いました。
- (3) 大沼 淳先生(学園第4期生)の記念講演(次世代の専門学校教育に望む)は、会場(体育館)のせいか音響効果がよくなく、十分に聞き取れず残念でした。マイクの本に電源が入っていなかったらしいという声も聞きました。これでは講師に対しても失礼なことです。従って内容について云々出来る状況ではありませんでした。
- (4) 私が最も気になったのは、同窓会事業として行われた「史跡木碑」の建設です。説明によると「先人のご苦勞に感謝と敬意を表すために、学園の前身である『満蒙開拓幹部訓練所』『満蒙開拓指導員養成所』『全国農業会高等農事講習所』の歴史的機関名を木碑に刻字し、後世に永く伝えていく記念史跡として学園正面入口地内に建立した」とありますが、満蒙開拓関係のことをどうして鯉淵学園同窓会が取り上げなければならないのか、はなはだ疑問に思います。組織的にも、また思想も中身も全く異なるものをこのように併記するという感覚を私は理解しかねます。建立後の茨城新聞(3月8日付)には「刻む義勇軍の歴史」というタイトルで紹介していますが、結果として全く観点の違う取り上げ方になっています。11月24日の朝日新聞「戦後70年」が開拓者の方々の悲惨な状況を取り上げていた直後であったこともあって、本県の関係者や全国で最も多くの犠牲者を出した長野県の方々は、この木碑をどう評価されるのか、大変気になるところです。

(加藤 整 10期卒)



## 同期会の開催状況

### 神戸・城崎の旅 22期生



日と山で記念撮影

鯉淵学園22期生の同期会が平成27年10月27日～29日に開催され、全国から24名(うち夫婦同伴が4組)が参加しました。今回は兵庫県が担当し、神戸から日本海側の城崎へ縦断する観光バスでの旅行となりました。

初日は明石海峡大橋を望むシーサイドホテル舞子ピラ神戸で同期会と懇親会を盛大に開きました。懇親会が終了した後、同ホテルで同期会の二次会を開いていた23期生の会場に予告もなく押し掛け、驚愕した23期生と懐かしい交流の時間を過ごしました。二日目は、海峡プロムナードで明石海峡大橋を展望したあと、世界遺産の姫路城天守閣に登城し、高田の馬場で昼食をとりました。その後、但馬に入り、コウノトリの郷公園、日と山に行き、最終地城崎温泉の「千年の湯 権佐エ門」で宿泊し寛ぎました。三日目は朝食後、解散となり、参加者は次回開催する群馬県での再会を約束して別れました。

(高木経吉 22期卒)

### 近畿大会を神戸で 23期生



ホテルで記念写真撮影

鯉淵学園23期生同窓会近畿大会が平成27年10月26

日～28日、世界最長の吊り橋で名高い明石海峡大橋が一望できるシーサイドホテル舞子ビラ神戸で開催され、全国の同期生59名が参加しました。今回は近畿地区が当番でありましたので、近畿各府県の同期生がそれぞれの役割を分担して、2泊3日の大会を盛り上げました。大会初日は、記念写真撮影、物故者への黙祷、学園や同期生の近況報告、次回開催地を決定したあと、懇親会と二次会を行いました。特に二次会では、参加者が持ち込んだ特産品の披露やお国自慢をするなど楽しい語らいの場となりました。

二日目はホテルを観光バスで出発し、姫路城・好古園を見学したあと、高田の馬場で昼食を食べ、太陽公園見学、舞子会場プロムナードを見学しました。ホテルに帰着後、懇親会へと移り、昨日と同じく二次会をしていた時に、当ホテルで同窓会を開催していた22期生20名が二次会の会場に突然現れました。このサプライズにより22期生とのコラボが実現し、楽しいひとときを過ごしました。三色でライトアップされた美しい明石海峡大橋を背景に、同期生が語り合う姿が印象的でした。三日目は朝食後、解散となり、参加者は次回開催する九州大会での再会を約束して別れました。(田中義治23期卒)

## 黒部に集まった26期生



黒部峡谷を背景に記念撮影

鯉淵学園26期同窓会「2015北陸」が平成27年7月4日(土)、5日(日)に富山県黒部峡谷宇奈月温泉ホテル黒部で開催され、本県から1名が参加しました。当日は同期生40人、うち夫婦参加が5組もあり、家族的な雰囲気の中で寛ぐことができました。今回の幹事役は富山県、福井県の皆さんに担当していただきました。初日は同窓会の行事として参加者の近況報告と学園の運営状況が報告され、その後全員で黒部峡谷を背景に記念撮影をしました。

懇親会では参加者が持ち寄った果実、酒、菓子類などの特産物が紹介されました。本県は酒米山田錦の産地でもありますので、山田錦を原料とした大吟醸純米日本酒2本を持参したところ大変好評でした。参加者は時間が経つのも忘れて、学生時代の思い出話や卒業後の仕事や家族、老後

の話で笑い声が絶えませんでした。二日目はトロッコ列車に乗り、雄大な黒部峡谷の眺望や散策などで楽しみました。参加者は3年後に開催される九州地区での再会を約束して別れました。(福井寛行26期卒)

## 兵庫県支部会費納入者

平成27年6月18日から平成27年12月5日までの期間で兵庫県支部会費を納入された方のみ入金順に掲載しました。ご協力ありがとうございました。(敬称略)

岩本佐知子20期卒、小島好文11期卒、普光江文江12期卒、加藤 整10期卒、加藤定子11期卒、中嶋則子15期卒、栗山 要1期卒、出店利彦19期卒、奥田和夫10期卒、奥田孝枝14期卒、柴垣仁司20期卒、大林幸子25期卒、西三千穂30期卒、近本昌博43期卒、辻 伴子27期卒、長尾 輝夫24期卒、橋本 篤31期卒、北垣裕之42期卒、岡本 昭治31期卒、岡本多恵子31期卒、豊田 潔24期卒、武久 正篤28期卒、田中智巳36期卒、堀端俊造3期卒、戸田寮一23期卒、前田豊明28期卒、孝橋利己25期卒、奥山隆治4期卒、正木浩二2期卒、岸根秀明36期卒、高見康彦44期卒、山川和也34期卒、富垣淳生16期卒、高木経吉22期卒、長峰年正19期卒、田中義治23期卒、山根正行28期卒、福井寛行26期卒、鞍田三穂13期卒、小森英逸31期卒、中野圭治53期卒、吉川千鶴子24期卒、奥野直之33期卒、森友敏則23期卒、井口成子23期卒、三宅栄史21期卒、西田 博25期卒、西浦英子24期卒、関口恵士25期卒、高田修身15期卒、近本恭仁15期卒、芦田靖司44期卒

## 支部会費未納入者の皆さんへ 会費納入のお願い

平成27年11月7日、和歌山県クワハウス白浜で開催しました鯉淵学園同窓会兵庫県支部の総会において、出席された会員の皆さんから、会費の値上げ、会費納入者の増加、会費未納入者への督促などの意見が多く出ていました。会員の皆さんからの会費は、支部だより作成費に充当しております。支部だよりを発行して6回目になりますが、多くの会員の皆さんから大変好評をいただいています。引き続き、支部だよりを発行するためには、会費未納入者の皆さんに会費(会員1人1,000円)のご負担をお願いしなければなりません。何卒事情をご賢察いただきご協力をよろしく願いいたします。

編集後記 (平成27年12月)

同窓生の皆さん、支部だよりを充実するために、今後とも執筆・取材のご協力とご意見・ご感想をお寄せください。住所、電話番号、職業等の変更があれば是非お知らせください。今年も大変お世話になりました。来年もよろしく願いいたします。

編集者：福井寛行(26期卒)

〒677-0038 兵庫県西脇市大垣内44-2

TEL(FAX)0795-22-1815 携帯090-1022-2672

E-mail:hirokei-677@lime.ocn.ne.jp